

2024/11/6 (水)

朝の礼拝

聖書 コリントの信徒への手紙 I 3章 7節 (新約聖書 297 頁)

ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神なのです。

黙って

ちょっと黙って、指図しないで、説得しないで、押しつけないで、もっと自由に考えさせて。失敗はいやだし、悔しい思いも、後悔もしたくない。でもくだらない、馬鹿げていると言ってもいいけど、お願いだからひとりで考えさせて、少し黙ってくれないか。

これ、私が中高生の頃、よく親に言っていたことです。先生に対しても口では言わなかったけど、心ではそう思っていました。本当に大人が言うのは正論だけど、頭ごなしに言うのがいやでした。自分も他人も毎日違うし、中高生の頃は迷走するものです。

イエスは「人が地に種を蒔き、夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなのか、その人は知らない。地はおのずから実を結ばせる」(マルコ 4章 27-28 節) と言っています。そのように神の愛という種は心という地に蒔かれ、自ずと成長します。

命は誰のものでもない。親のもの、先生のもの、そして自分のものでもない。天から授かった与りものです。大人は子どもたちの日当たり、水加減、風通しに心を配るだけです。子ども自身も自分の成長に驚きます。黙って、信じる心が愛となって実ります。

(しばらく黙想しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは昔、パウロによき志を与え、コリントに神の愛の種を蒔き教会を建てました。ところが互いに誰々先生がいいと言合い分かれ争いました。しかしあなたは神の愛を種の生長にたとえられました。どうかわたしたちの心に蒔かれた神の愛を信じ、すべてをあなたに委ね、互いに愛し合い、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン